

日本小児耳鼻咽喉科研究会運営委員会議事録

日 時：平成17年7月2日（木）

場 所：薬業年金会館 401号室（大阪、谷町）

出席者：市村（運営委員長）、家根（細井会長代理）、五十嵐（第52回事務局）、大迫、大塚、小河原、川城、工藤、小林、佐々木、佐藤、佐野、鈴木（賢）、田中、千葉、中井、中島、西崎、深美、福永、守本、矢野

（50音順、敬称略）

【議題】

1. 第52回大会（西和則会長、平成17年7月2日）の件（西会長）

開催にあたって挨拶があった。

2. 第53回大会（福永慶隆会長、平成17年12月3日）の件（福永会長）

会場は全国社会福祉協議会・灘尾ホール（東京、霞ヶ関）となる。テーマは「耳鼻咽喉科領域における感染症」。演題の締め切りは9月30日で、協力がもとめられた。

3. 平成18年の大会（細井裕司会長、平成18年7月1日）の件（家根会長代理）

小児耳鼻咽喉科学会の第1回大会となる。会期は18年7月1日、会場は奈良県新公会堂の予定。

4. 平成18年以降の学会開催に関して（市村運営委員長）

平成18年より学会となることについて既に日本耳鼻咽喉科学会からの了承が得られており、本日をもって学会昇格を決議したいと報告提議された。これにあたり、運営委員会としての決議が求められ承認された。

学会に変更後昇格後は大会総会・学術講演会は年1回の開催となる。半日開催から終日開催となり、内容も広げる予定。また、会場は会長が選定する。会長は立候補制とし、小児科と耳鼻科から募る。

5. 庶務報告（川城委員）

6月20日現在の会員数は、一般会員636名、団体会員6名会員数である。

また、一色玄委員（大阪市立大）、高坂知節委員（仙台通信病院）、吉川徳茂委員（和歌山医大）退任の希望がでており承認された。

佐野光仁委員（大阪府立母子保健総合医療センター）が常任運営委として推薦され承認された。

あらたに幹事として深美医師（獨協医大耳鼻科）矢野医師（東北大）2名が承認された。

6. 会計報告（小河原委員）

現在の会費85%収集率徴収率である。広告収入も充分集まっており、予算の執行率もほぼ予定どおりである。

7. 日本小児耳鼻咽喉科会誌編集の件（工藤委員）

第26巻1号が無事発行され、第51回大会内容が編集されたことが報告された。今回の発行部数は730部。バックナンバー申込書を織り込んだ。広告の掲載が増加し協力に謝意が述べられた。学会移行に関連し、次回の委員会までに投稿規約を改変する方針が述べられた。学会移行後は年3回会誌を発行することになり、年1回分は大会長より抄録集を発行することで検討していることが報告された。これまでの研究会としての活動の資料は何らかの形で保存してもらいたいとの意見があった。今後会誌の中で、特集を組むなことなども検討してゆく。

8. 会則について（市村委員長）

会則の原案が提示された。研究会の規約との大きな違いは、役員構成についてである。理事、理事長、監事をおくこととし、任期を設定する。評議員の選出年齢は65歳までとし、65歳以降は功績のあった会員には名誉会員、顧問として運営に携わっていただく方針。また最高決定機関は運営委員会から評議委員会に変更となる。会計年度は6月1日から5月31日までとし、移行期に関しては今後検討してゆく。執行は来年からとなる。

9. 急性中耳炎ガイドライン作成（川城委員）

日本耳科学会が中心となって小児急性中耳炎ガイドラインを作成中であり、小児耳鼻咽喉科研究会から飯野委員と川城信委員が参加している。本ガイドラインのドラフトができあがったので小児耳鼻咽喉科研究会の運営委員会、中でも小児科の先生からご意見をいただく。後日、全運営委員にガイドラインを配送する。ご意見はメールで飯野委員あるいは川城委員に知らせることになった。

10. その他（小河原委員）

小児外科関連学会・小児科関連学会出席を守本幹事に交代する旨が提案され承認された。

日本小児耳鼻咽喉科研究会

運営委員長 市村 恵一

庶務担当 川城 信子

文責 佐々木祐佳子・深美悟・守本倫子